

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2021年2月）議事録

日 時：2021年2月19日(金) 午後5時30分～6時45分

場 所：ZoomによるWeb会議

議 長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長、

碓井外幸、西平賀昭各副理事長、

武政 徹常務理事、井福裕俊、太田 真、

大野 誠、栗原 敏、後藤勝正、小山勝弘、

下光輝一、新開省二、須田和裕、須永美歌子、

竹森 重、中里浩一、永富良一、成田和穂、

前田清司、宮内 卓、宮川俊平、

和気秀文各理事、

井上 茂、清田 寛、定本朋子各監事、

徳田修司第75回大会長、

加藤 公第76回大会長、

小橋 元第77回大会長

欠席者：赤間高雄、田中喜代次、浜岡隆文各理事、

小林康孝監事

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

理事会終了時までに訂正等がなかった場合には、自動的に承認されることにした。

2. 日本スポーツ体育健康科学学術連合2021-2023年度運営委員担当者（正式委員・代理委員）の選出について（鈴木理事長）

日本スポーツ体育健康科学学術連合における、2021年度から2023年度の日本体力医学会からの運営委員として須田理事が承認され、代理委員に東京農工大学の福本寛之会員が推薦され、承認された。

3. その他

1) 領域横断的なフレイル・ロコモ対策の推進に向けたワーキンググループについて（下光理事）

日本医学会連合からの「領域横断的なフレイル・ロコモ対策の推進に向けたワーキンググループ」について、当学会の代表として参加した下光輝一理事より、進捗状況が報告された。この活動についての今後の取組み方針や目標等についてのアンケート調査は、渉外委員会で行うことが提案され、承認された。

2) 今年度のスポーツ医学研修会中止について

（中里スポーツ医学研修会委員長）

新型コロナウイルス感染拡大状況と、例年、開催会場としている日本体育大学の施設が、外部団体からの利用を受け付けていないことから、今年度のスポーツ医学研修会を中止することが提案され、承認された。

3) 日本体力医学会健康科学アドバイザーの継続申請について（碓井称号委員長）

今年度のスポーツ医学研修会の中止に伴い、日本体力医学会健康科学アドバイザーの継続申請について、昨年度と同様に、1年間の申請期間延長が提案され、承認された。

4) 「体育・スポーツ界におけるジェンダー平等宣言」

について（鈴木理事長）

日本スポーツ体育健康科学学術連合運営委員会からの「体育・スポーツ界におけるジェンダー平等宣言」について、加盟学術研究団体の名義を掲載することを要望され、審議の結果、この宣言に賛同し、当学会の名義を掲載することが承認された。

5) 第76回大会（三重）における日本体力医学会本部企画シンポジウムの課題について（武政総務委員長）

第76回大会（三重）会期中に開催される学会本部企画シンポジウムについて、宮川理事、田中理事から、其々のテーマが提案され、承認された。これらを学会本部からの企画案とし、今後は、宮川理事と田中理事其々から、大会開催事務局へ直接相談し、シンポジウム企画を進めていくこととなった。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 編集委員会（後藤編集委員長）

配布資料に基づき、「JPFMSM」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況が報告された。

(1) 「JPFMSM」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況<投稿状況>(2020年9月1日～2021年1月31日)

「JPFMSM」誌：新規投稿21編（内海外2編）

※前年同期間：新規投稿16編（内海外0編）

1/31現在、審査中6編

「体力科学」誌：新規投稿17編

※前年同期間：新規投稿17編（依頼教育講座含む）

1/31現在、審査中5編

<発行予定>

「JPFMSM」誌

○Vol. 10, No. 2（2021年3月25日発行）

Regular Article 7編

○Vol. 10, No. 3（2021年5月25日発行）

【特集号】Review 2編, Short Review 1編,

Regular Article 1編, (別枠) Invited Review 1編

○Vol. 10, No. 4（2021年7月25日発行）

Regular Article 5編, Short Communication 2編

○Vol. 10, No. 5（2021年9月25日発行）

Regular Article 4編+ (今後の受理論文3編予定)

「体力科学」誌

○Vol. 70, No. 2（2021年4月1日発行）

原著3編, 資料3編

○Vol. 70, No. 3（2021年6月1日発行）

原著1編+ (今後の受理論文5編予定)

(2) DOAJ (Directory of Open Access Journal) に掲載されました。(2021年1月7日)

(3) 掲載取り下げについて(2021年1月21日)

投稿受付番号 [JPFMSM-2020-076] でAccept後にイランの著者より「掲載料の支払いができない、掲載料を免除できないか」のメールがあったが、DOAJの掲載料免除国のリストにイランが入っていない為、掲載取り下げとした。

2) 学術委員会

(1) 学会賞選考委員会（前田学会賞選考委員長）

第34回日本体力医学会学会賞について、現在、委員による選考が行われていることが報告された。また、昨年度に行えなかった、第33回日本体力医学会学会賞の受賞者による表彰と講演については、第76回（三重）大会の会期中に行うことが報告された。

(2) ガイドライン検討委員会

(宮内ガイドライン検討委員長)

ガイドライン作成として、生活習慣病の予防、熱中症の予防、アンチドーピング等について進めていることが報告された。

3) 評議員選考委員会（大野評議員選考委員長）

女性評議員の増員を図るため、その意向を申請要項に追記し、学会ホームページと学会誌に掲載することが報告された。

4) 渉外委員会（永富委員長）

第76回（三重）大会においての国際交流シンポジウムについては、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、見合わせる事が報告された。また、海外における各大会等の報告と進捗状況が報告された。

2. 第75回（鹿児島）大会の進捗状況

(徳田第75回大会長)

徳田大会長より、以下の事項について報告された。

- ・参加人数：738名
- ・発表演題数：452題
- ・シンポジウム：20テーマ
- ・収入合計：10,537,047円

大会開催費用については支払いを済ませ、公認会計士による監査終了後、次回理事会で大会の収支報告をする予定である。

3. 第76回（三重）大会の進捗状況（加藤第76回大会長）

配布資料に基づき、大会の進捗状況について報告された。

会 場：三重県総合文化センター

会 期：2021年9月17日(金)～19日(日)

テーマ：「知の継承と共有」

4. 第77回（栃木）大会の進捗状況（小橋第77回大会長）

小橋大会長より挨拶がなされ、配布資料に基づき、大会の準備状況について報告された。

会 期：2022年9月20日(火)～23日(金)

会 場：栃木県総合文化センター

第44回（2022年度）公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団学術研究募集

主催：公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団
THE DESCENTE AND ISHIMOTO MEMORIAL FOUNDATION FOR THE PROMOTION OF SPORTS SCIENCE

応募資格：

- ①体育学，健康科学，人間工学，被服科学，運動施設工学等健康の増進と体力の向上に関わる学術，およびその他スポーツ振興に寄与する学術研究に関する講座を持った大学，およびこれに準ずる研究機関に所属する個人またはグループ。
- ②高校生から幼児までの教育機関に奉職しており，①に前述した分野で研究または調査活動を積極的に行っている個人またはグループ。
この場合，運動生理学的研究でなくとも，あくまで教育現場に於ける身近なテーマで，すぐにも役立つ研究テーマを求めている。
但し，研究報告等に不慣れな人は，報告書作成に習熟した人を共同研究者に加えて申請のこと。
- ③eAPRINなどの研究倫理教育を修了していること。

学術研究テーマ：

第一部 課題学術研究

本年度テーマ

- ①「暑熱環境下における運動パフォーマンスサポートまたは快適性を実現する手法に関する研究」
年々過酷さを増す夏の環境下において，スポーツウェア，用品における暑熱環境下での運動パフォーマンスサポートまたは快適性を実現する幅広い視点からの提言を頂きたい。
- ②「運動時におけるウェアの快適性実現の手法，あるいは快適性を定量化する新たな手法や指標に関する研究」
運動前，運動中，運動後において，また外部環境により衣服内の環境は温度，湿度，発汗などにより大きく変化する。スポーツウェアの快適性を幅広い領域に対して実現する手法，ならびに快適性に寄与する機能性の新たな定量手法や指標に関する提言を頂きたい。
- ③「運動後のリカバリーに有効なクールダウンを実現する手法に関する研究」
運動後のリカバリーはトップアスリートから一般の愛好家まで，スポーツの楽しみを継続するうえで非常に重要です。運動後の疲労回復や運動パフォーマンスの維持向上のための「運動後のリカバリーに有効なクールダウン手法」について提言を頂きたい。
- ④「スポーツウェア開発に関するシミュレーション技術の構築」(衣服圧，エアロダイナミクス，衣服内温湿度分布，体型，筋骨格など)
スポーツウェア，用具の開発は実際の人の運動を物理的あるいは生理的に評価し進めることが多いが，開発の精度を高めていくために，あるいは効率化していくために，シミュレーション技術を利用することが不可欠です。
スポーツ時の身体周りの流体シミュレーション（流水抵抗，空気抵抗）や衣服内の温湿度分布シミュレ

ション，衣服圧シミュレーション等，スポーツウェアの開発に有効なシミュレーション技術の構築について提言を頂きたい。

第二部 自由課題学術研究

本財団の主旨に添ったものであり，申請者がこれまで行って来た研究を助成することによって，調査・研究の発展・充実が期待されるものであること。

応募方法：

本年度の公募締切日は2021年8月6日です。

応募者は，所定の申請書に研究テーマ，第一部・第二部の区分，目的，内容および期待される成果等を簡潔に書き，2021年8月6日（当日消印有効）までに書面にて下記宛提出すること。（申請書は所定用紙または当財団ホームページより，B4サイズにてダウンロードしたものとする。但し所定用紙をコピーし使用する場合，第44回申請書をコピーのこと，自作による作表および前回までの用紙は使用しないこと）

応募書類 送付先・資料の請求および問い合わせ：

〒567-0086 大阪府茨木市彩都やまぶき2-3-2

デサントジャパン(株)DISC OSAKA 内

公益財団法人 石本記念デサントスポーツ

科学振興財団 編集局

TEL 072-649-0910 FAX 072-649-0920

ホームページアドレス <http://www.descente.co.jp/ishimoto/>

E-mail zaidan@descente.co.jp

助成者の入選内定通知：

研究助成の対象として採択された研究者に対し，当財団より書面にて本人宛通知する。

(2021年11月下旬の予定)

なお，入選されなかった方には，12月上旬までに本人宛通知する。

助成金の交付：

第一部「課題学術研究」

入選100万円（研究期間別途設定，件数2～4件）を予定

第二部「自由課題学術研究」

最優秀入選100万円（2～3件），

優秀入選50万円（17～18件）合計20件を予定

受賞者は，2022年2月に贈呈式にて発表し，助成金は，3月31日までに交付する。

なお，研究助成は個人またはグループを対象とし，所属機関の間接経費，一般管理費は助成の対象にしない。

報告書の提出：

選考の結果，助成金の交付を受けた者は，所定の様式で原稿用紙550字詰22枚前後（図表類を含む）の研究成果報告書（Abstractを含む）を下記期日までに当財団に提出すること。提出された報告書は，当財団の学術委員が査読を行ない，その結果再考・検討を依頼することがある。

第一部 研究期間により別途設定（研究期間が複数年となった場合には，A4サイズ2枚程度の間報告書を提出）

第二部 2022年6月30日

また，同時に研究助成金使途報告書を提出すること。

詳細は入選者に別途通知する。

その他の詳細については，当財団ホームページで確認のこと。

編 集 後 記

体力科学70巻4号をお届けします。本号は原著論文3編、JPFISM (Vol. 10, No. 4, 2021, Regular Article 5編, Short Communication 2編) の抄録などで構成されています。いずれの掲載論文も力作揃いで、投稿していただいた皆様に編集委員会委員として感謝申し上げます。今後も、編集委員長はじめ、事務局担当者と各担当編集委員が協力し、皆様からの貴重な投稿原稿を、迅速かつ公正な審査を経て掲載に至るよう編集委員会としての責務を果たして参りたいと思います。また、既にご案内のように第76回日本体力医学会大会はオンライン開催となりました。多くの皆様の参加をお願い致します。

さて、この原稿を書いている本日は6月21日ですが、ワクチン接種が順調に進み、感染者数も減少すれば、本号が皆様のお手元に届く頃は、東京オリンピック開催期間の真っ只中で、コロナ禍での多くの困難を乗り越えた各国各種目の選手、特に日本選手の活躍に連日盛り上がりを見せているのではないかと期待を込めて推察するところです。8月24日からはパラリンピックも開催されます。おそらく、それぞれの立場から各競技現場でのこのビッグイベントに関わられる本学会員も少なからずおられるのではないかと思います。高温多湿の時期の開催ということで、熱中症対策が主な問題であったことがすっかり忘れられている感がありますが、安全な大会運営を実現し、今こそスポーツの力を示して、日本や世界の皆様に

感動や勇気、希望が与えられることを切に願うばかりです。それにしても、昨今の日本のアスリートの活躍には目を見張るものがあります。最近のニュースを振り返っても、山縣選手の100 m日本新記録、池江選手の復活、内村選手の種目別での代表入り、マスターズを制した松山選手や全米女子オープン優勝の笹生選手、2刀流でMLBを席捲する大谷選手、自らの投球メカニクスを発信するダルビッシュ選手、NBAプレーオフ進出を果たした八村選手等々、数えれば切りがありません。本人のたゆまぬ努力と研鑽の結果であることは勿論ですが、その陰には、トレーニング方法の進歩やその啓蒙、メンタルサポートや栄養サポート、怪我の予防や対処等々、長年にわたる本学会や各スポーツ科学関連学会の学術活動の成果が実を結び始めているのかもしれない。

その成果の発表の場として、今後とも是非「体力科学」や「JPFISM」をお役に立てていただければと思います。大学をはじめ各研究機関では、厳格な業績評価のためにSCI論文がその対象となることは避けがたい状況ですが、いわゆるハゲタカジャーナルの増加を考えれば、歴史と伝統を持つ権威ある自国の学会誌を持つ重要性が再認識されるところです。皆様方の本誌への積極的なご投稿をお待ちしております。

船瀬 広三

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol. 70, No. 4

体 力 科 学 第 70 巻 第 4 号

令和 3 年 7 月 25 日 印 刷
令和 3 年 8 月 1 日 発 行

編集兼発行者
発 行 所

編 集 事 務 局

印 刷 所

後 藤 勝 正
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL: 03-5981-6015 FAX: 03-5981-6012
E-mail: jspfsm@asas-mail.jp
〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL: 0235-22-3120 FAX: 0235-22-3120
E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp
〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1
鶴岡印刷株式会社